

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通経済統計調査室  
平成26年10月2日(木)公表

# トラック輸送情報

平成26年7月分

平成26年8月分は平成26年11月上旬公表予定

\*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111      F A X   03-5253-1567

担当 浜田、桑原   内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成26年7月分）

平成26年10月2日

総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室

担当：浜田、桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,699,693トンで、前月と比べ総輸送量が約580千トン増加したため、前月比111.3%（季節調整済み98.9%）となり、前年同月との比較では、約187千トン減少したため、前年同月比96.8%の実績であった。

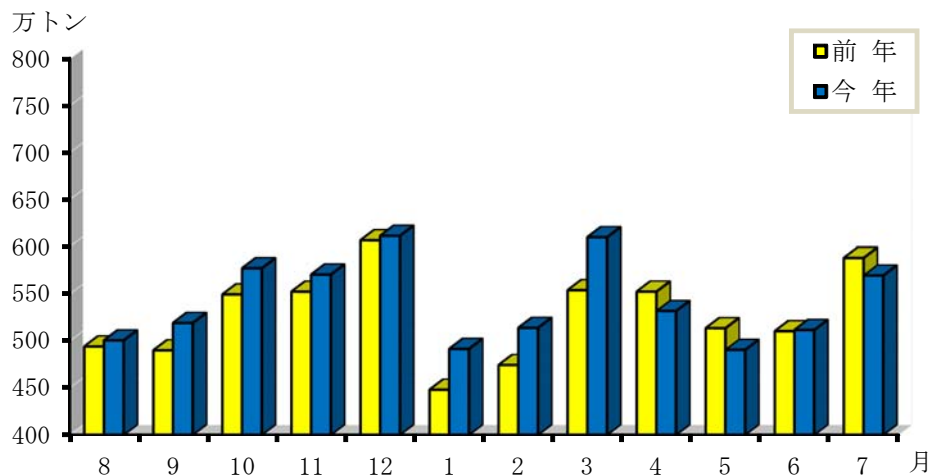
なお、平均稼働日数は25.0日で、前月と比べ0.6日増加し、前年同月との比較では、0.3日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、227,988トンで、前月と比べ約18千トン増加したため、前月比108.7%となり、前年同月との比較では、約5千トン減少したため、前年同月比98.0%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

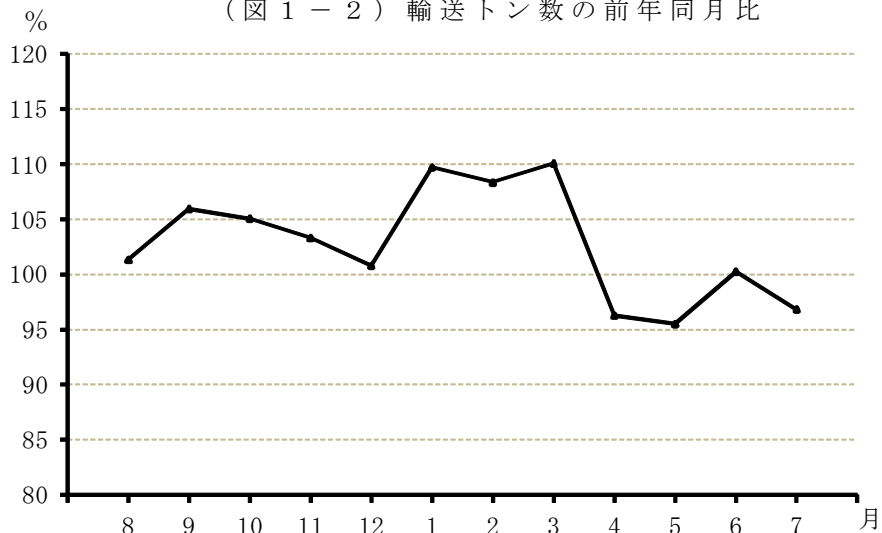
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

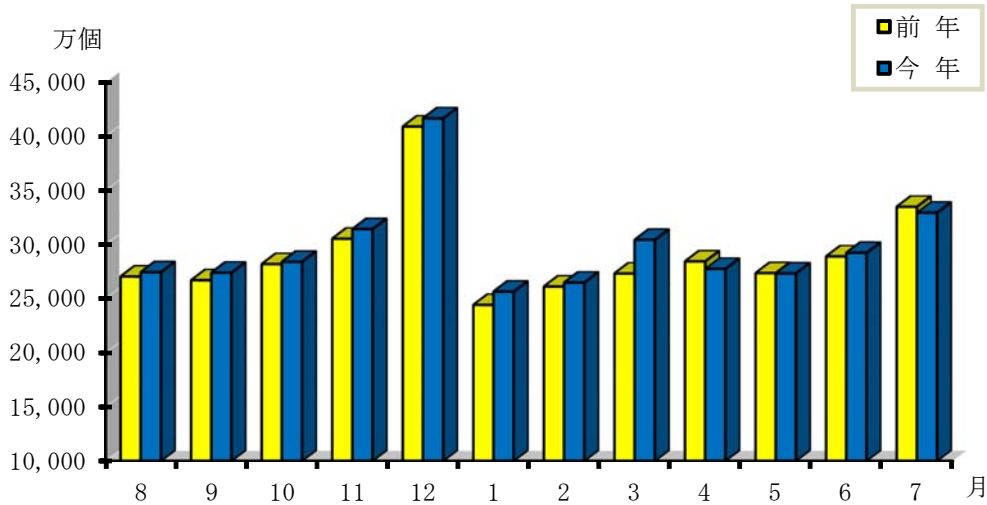


(2) 宅配便の概況

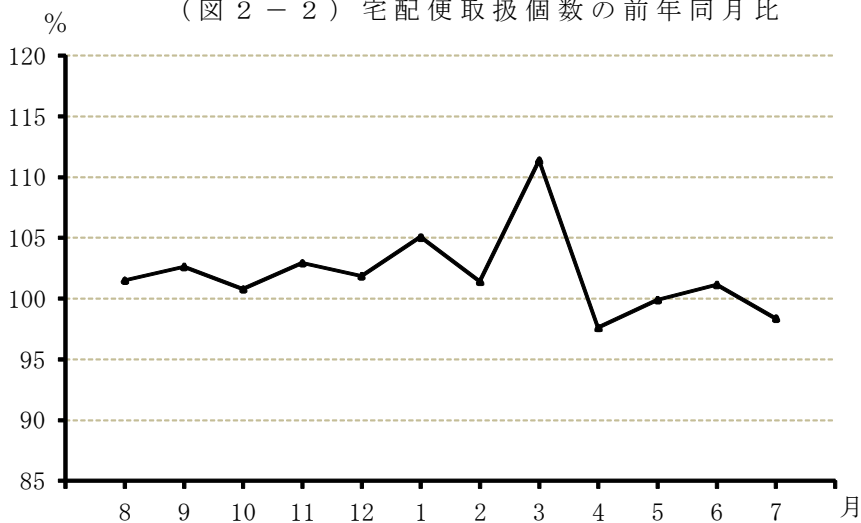
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 329,521 千個で、前月と比べ 約 37,083 千個増加したため、前月比 112.7% (季節調整済み 98.9%) となり、前年同月との比較では、約 5,479 千個減少したため、前年同月比 98.4% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社(24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、全ての品目において、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が全ての品目で見られた。また、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」、「食料工業品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その主な減少要因として、倉庫から出る貨物減が「化学工業品」で、工場・生産地からの貨物減が「日用品」で、また、デパート・スーパーの貨物減が「その他」で見られた。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数						主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減	減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	3	10	1	2			4
	金属製品		5	15	1			関東、北陸信越	4
	機械		8	10	2			関東地方、愛知、大阪	4
	化学工業品		8	12	2		その他の化学工業品	関東地方、中部、大阪	4, 7
	繊維工業品		4	16	2				4
	食料工業品		10	9	1		製造食品、飲料	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	日用品		7	13	1		その他の日用品	関東、中部地方	4
	その他	4	6	11	1		宅配貨物、百貨店配送品		2, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1		11	5	1			
	金属製品		1	16	4				
	機械		2	11	7				
	化学工業品		3	12	7				4 7
	繊維工業品		2	16	4				
	食料工業品		4	11	5		製造食品	中国	4
	日用品		2	14	5	1			4
	その他	1	2	9	7	2			2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者815社/調査対象事業者数1,038社)の輸送量は、前月比 106.6%、前年同月比 99.9%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	99.9 %	101.9 %	102.6 %	97.4 %	99.2 %	97.1 %	101.6 %	99.0 %	99.0 %	95.6 %	106.9 %	
前 月 比	106.6 %	112.2 %	107.4 %	100.6 %	110.8 %	102.2 %	104.0 %	104.9 %	102.3 %	102.7 %	110.4 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 112.2%、対前年同月比 101.9%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、季節的需要増により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増により「石炭」が、また、「工業用非金属鉱物」、「機械」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 107.4%、対前年同月比 102.6%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「水産品」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「食料工業品」が、また、「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響による貨物減により「木材」、「工業用非金属鉱物」、「揮発油」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも、減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 100.6%、対前年同月比 97.4%であった。品目別では「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「砂利・砂・石材」、「機械」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 110.8%、対前年同月比 99.2%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「木材」が、季節的需要増により「化学肥料」、「日用品」が、また、「鉄鋼」、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「非鉄金属」が、また、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 102.2%、対前年同月比 97.1%であった。品目別では、景気の影響による貨物増により「機械」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 104.0%、対前年同月比 101.6%であった。品目別では、お中元・飲料水等季節的需要の増加により「食料工業品」が、商社・問屋からの貨物増により「金属製品」が、輸出入の貨物増により「機械」が、季節的需要増により「日用品」が増加したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 104.9%、対前年同月比 99.0%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の石油製品」、「食料工業品」が、工場・生産地からの貨物増により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 102.3%、対前年同月比 99.0%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」、「廃棄物」が、工場・生産地からの貨物減により「その他の石油製品」、「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 102.7%、対前年同月比 95.6%であった。品目別では、工場からの貨物増により「紙・パルプ」、「食料工業品」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「鉄鋼」、「食料工業品」、「取り合せ品」が、建設関連の需要増により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「石炭」、「セメント」、「化学肥料」が、商社・問屋からの貨物減により「セメント」、「日用品」が、消費税増税後の需要減により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 110.4%、対前年同月比 106.9%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「金属製品」が、商社・問屋からの需要増により「紙・パルプ」が、倉庫への入出庫増により「その他の窯業品」が、季節的需要増により「日用品」が、景気の影響により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	1	2							2		5
	減	1	2							1		4
2. 野菜・果物	増	4	9		1			3	3	6		26
	減							1	3	3		7
3. その他の農産品	増	1										1
	減	1				1		1				3
4. 畜産品	増							1		1		2
	減											
5. 水産品	増	1	3		1				1	2		8
	減	1			1					2		4
6. 木材	増	2	1		2			1		3		9
	減	1	3					1	1	3	1	10
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	2			1							3
	減									2		2
9. 金属鉱物	増											
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	10	1			1		2	1	4	1	20
	減	1		1				2	2	4		10
11. 工業用非金属鉱物	増	3						2	1	1		7
	減	1	2						1			4
12. 鉄鋼	増	1	2		2			4	5	3	1	18
	減		2					1		1	1	5
13. 非鉄金属	増		1									1
	減				2							2
14. 金属製品	増		1		3	1	4	2	3	1	1	16
	減	1	1		1			1				4
15. 機械	増	2				2	2	2	3	6	1	18
	減		1	1	2			2	2	2	1	11
16. セメント	増	4	1		1			1		3		10
	減			1				1	1	5		8
17. その他の窯業品	増				1	1				2	1	5
	減								2	2		4

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		品目										
18.揮発油	増				1				1			2
	減	1	2									3
19.その他の石油製品	増	1						3		1		5
	減	4						1	2			7
20.コークス・その他の石炭製品	増											
	減											
21.化学薬品	増	1										1
	減				1		1		1			3
22.化学肥料	増	2			2							4
	減	1	1							3		5
23.その他の化学工業品	増											
	減		1					1	1			3
24.紙・パルプ	増	1	2				2	1	2	3	1	12
	減		1				1		6			8
25.繊維工業品	増								1	1		2
	減											
26.食料工業品	増	3	5	1	1	1	4	3	3	8	1	30
	減		1		1		1	2	1	1		7
27.日用品	増				3		2	2	1	2	1	11
	減	1	1		1				1	5		9
28.その他の製造工業品	増		1		1				1			3
	減									1		1
29.金属くず	増									1		1
	減											
30.その他のくずもの	増								1			1
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	2	1							2		5
	減	2	2						1	3		8
32.廃棄物	増		4							2		6
	減				1			1	4	2		8
33.輸送用容器	増									1		1
	減											
34.取り合せ品	増							2	1	7		10
	減				1							1
35.その他	増	1	5	3	4		3	2		3		21
	減		1	2	4		2			3	1	13